

# 「奨学金返済ができないから夢を諦めます」 から考える日本語教育

日本語教師として、教員養成現場の教員として、  
いま何ができるのか

敬和学園大学 有田佳代子

# 毎日新聞1994年8月24日

## 「資格は取って見たものの 受け皿ない日本語教師、嘆く志願者『これは詐欺だ』」

日本語教師 女性24歳 日本語教育主専攻学部出身

「週四時間勤務。給与なし、交通費のみ支給」

ほかに講師が六人いるが全員無給で働いている。

高校のころ日本語教育に興味を持ち、日本語教師を目指し大学入学就職活動時、片端から日本語学校に電話をかけて職に就く

しかし、学校の営業至上主義になじめず辞職。

現在は議員秘書をしながら日本語教育への情熱も捨てられず、ボランティアで教え続ける。

「生徒が日本語で話すのをみると自分が役立っていると思えてうれしい。就職口もお金もありませんが……」。

## 高田(1992)「大学日本語教員養成課程から 卒業生に活躍の場を与えてほしい」『月刊日本語』

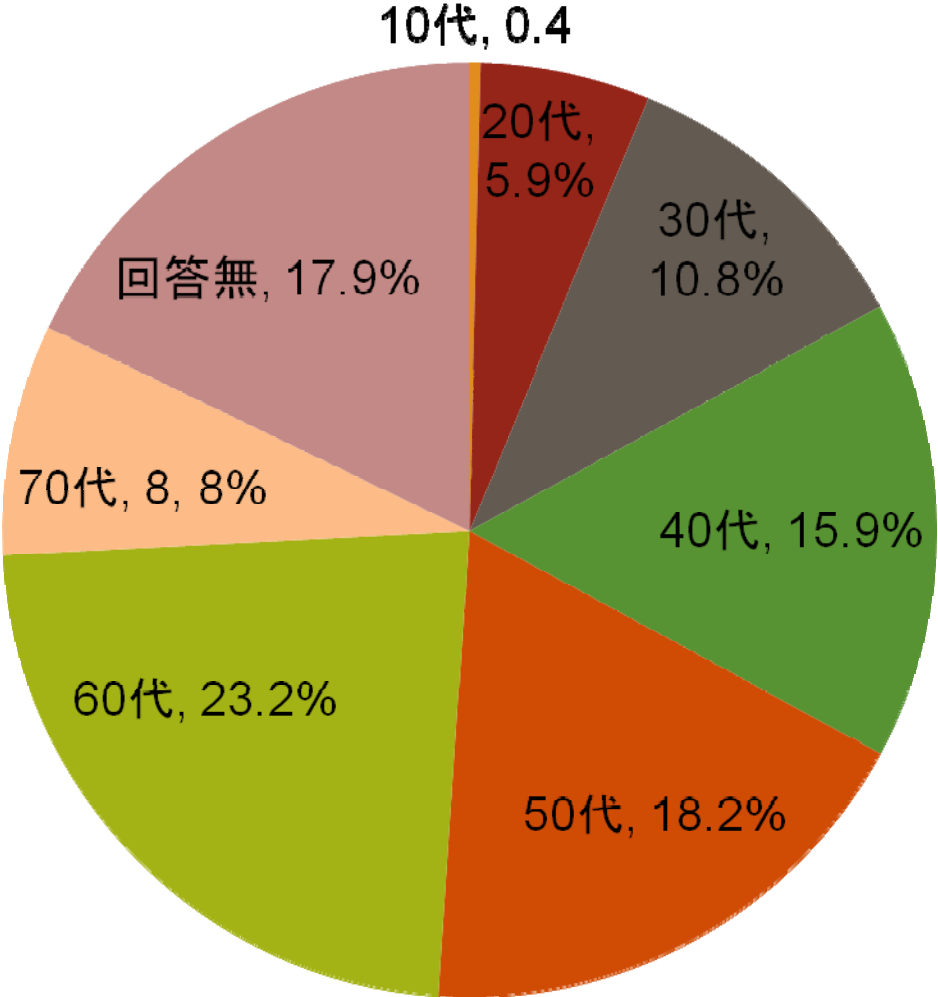
「日本語教育を主専攻とする大学として、すでに卒業した200人以上の学生たちに犠牲を強いてきたのではないか。日本語教師になる夢を抱いて入学し、専門的な勉強をし、資質能力を養ってきた。しかし、いざ卒業するときちゃんと待遇してくれる場はほとんどない。彼らの多くは志半ばにして日本語教師の道を諦め、ほかの道に方向転換していった。こんなコースを作っただれも日本語教師にならない、教員たちはどんな指導をしているのかという批判がある。しかし、我々としては、社会の要請に応じて人材を育成し、送り出した。この人材を受け止めて活躍の場を提供するのは、日本社会、国の役目ではないかと言いたいのである」

# 国内では、未曾有の売り手市場？

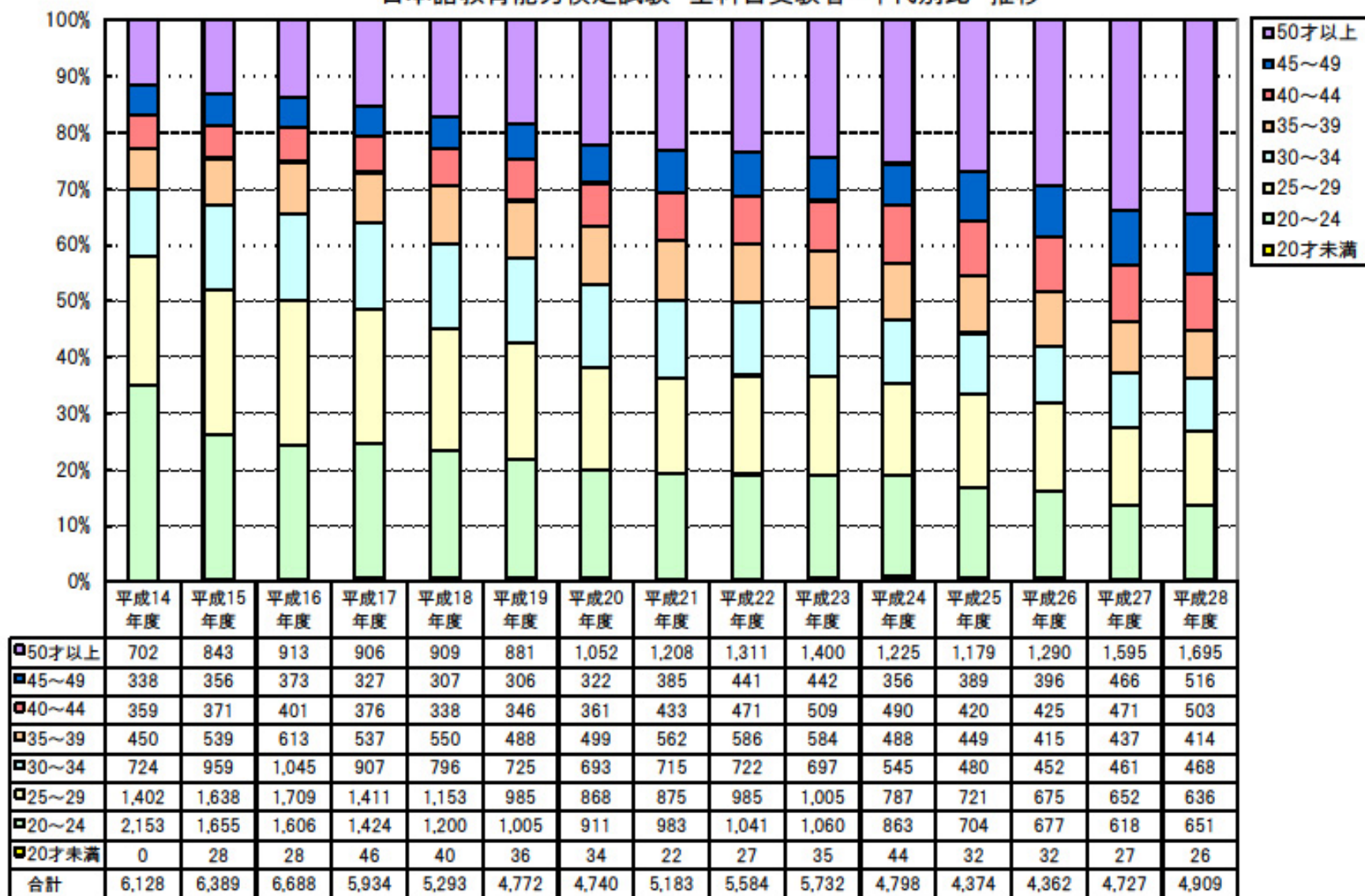
	日本語教育機関に在籍する 日本語学習者数	留学生数
2011年	25,463人	163,697人
2012年	24,092人	161,848人
2013年	32,626人	168,145人
2014年	44,970人	184,155人
2015年	56,317人 <b>25.2%増</b>	208,379人 <b>13.2%</b>

(独立行政法人日本学生支援機構)

# 日本語教師の年齢比(文化庁2015年度)



日本語教育能力検定試験 全科目受験者 年代別比 推移



## 志賀(2016)新たに日本語教師として働き始めた主婦層14名へのインタビュー SCAT分析結果

Q:日本語教師になったのを後悔するのはどんな時ですか？

A:待遇面、主に収入面に不満及び不安を抱いている。もともと 労働力に見合わない時給であることに加え、時間外に対しての対価が支払われない。そして、昇給がないということに絶望的な思いを抱く。(中略)優秀な若い人が将来的な不安を抱えるために日本語教師という職業を選ばないのではないかと心配している。

# 就労の「バックドア」としての留学という現状

- ・「いわゆる移民政策は取らない」日本政府
- ・労働力不足に悩む日本企業
  - 「裏口」からの外国人労働者導入政策(梶田1994)
- ・留学生送り出し国の高失業率と貧困
- ・日本と送り出し国の留学/人材派遣?ビジネス



- ・日本語習得、進学や資格取得を目的としない「留学生」
- ・留学資金の借金返済や学費、生活費のため、週28時間以上のアルバイトで疲労困憊している留学生
- ・就労目的の学生と進学目的の学生の混在による混乱  
(西日本新聞、岩切2015)



つまり...

- ・リタイヤした年長者や主婦層が日本語教師の主流
- 売り手市場ではありながら、経済的基盤を別に持つ人たちが日本語教育界に参入
- ・若者の日本語教育離れ
- ・入ったとしても、キャリアを積むために良好とはいえない労働環境

## その要因①

### 言語教育政策の理念と一貫性の未確立

「労働者はほしい、でも定住してほしくない」という

日本社会の本音？

すぐ帰る人たちだから、日本語教育は要らない？

公的予算が必要のない無賃労働？

→主婦やリタイヤした元気な年長者が担う

シャドーワーク

## その要因② ジェンダー性

- 日本語教育能力検定受験者数男女比  
約1:2.6(2016年)
- 日本語教育学会会員構成男女比  
約1:3(2013年)
- 外国人の「お世話係」、ケアは女性の仕事、  
日本人なら誰でもできる非熟練労働、  
供給源は無尽蔵・・・??!!  
介護等福祉職との類似

## その要因③

### 「聖職者」的教職観と「補佐的学問」視

学習者にかかわるすべての事項への関与、高潔な人格と知性、謙虚な姿勢とリーダーシップ、博愛など、「何から何まで」の際限のない努力と奉仕への社会的期待(有田2016)

VS

諸科学の準備のための「補佐的学習」と認識され、教育機関のなかで「下に置かれがち」(瀬瀬2016)な日本語教育。「いわれなき蔑視」(松岡2003)、「日本語教師の用いる日本語を揶揄し、その教授法を見下し、・・・日本語教育という営みを蔑む」(中村2008)

## その要因④ 日本語教育関係者内部での 信念や利害をめぐる対立や分断

たとえば・・・

- ・日本語教育の現場で生計を立てようとする若手の教師  
VS 「やりがい」「自己実現」を求めるボランティア教師、  
配偶者控除範囲内で働く主婦層教師
- ・N1合格や「一流大学」への進学を最優先する教師、  
「実用性」「効率性」を重視する現実主義の教師  
VS 言語教育は全人教育だと主張する教師、  
学習者のアイデンティティ形成こそ日本語教育の目的と考える教師
- ・専任日本語教師 VS 非常勤日本語教師
- ・大学の日本語教師 VS 日本語学校の日本語教師
- ・学会に来る日本語教師 VS 学会に来ない日本語教師

## これから何ができるだろうか 1

- 「日本語教員養成課程」では、必ずしも日本語教師を目指す人だけではなく、多文化社会構築のために必要な市民を育成する、と示す。
- 日本語教師を目指す人には大学院を勧める。
- 地域の日本語学校等の先生たちと、勉強会・読書会・実践交換会などを組織する。

## これから何ができるだろうか 2

- ・日本語教育の専門性についての議論を深め、  
それをマジョリティ(≡母語話者≡日本人)に伝える。  
ex.日本人学生向け授業開発、市民講座などの講師、  
一般社会向けの著作、他の言語教師や福祉分野との協働・・・  
教育方法論とアクセス方法論も
- ・新自由主義的な言語学習観だけではなく、それ以外の学習目的、  
なぜ日本語を学ぶのか、なぜ教えるのかを、教師教育で徹底的  
に議論する。日本語教室でもできるだけ多くの機会に議論する。  
違う価値観を知る→少数派の立場を想像できる、自分のなかの独善性や  
差別意識を客観視できる→お茶の間レイシズムなどカジュアルな差別を  
「戦争の芽」として認識できる→それに適切に対処できる

# 参考文献

- ・丸山敬介(2015)「『日本語教師は食べていけない』言説—その起こりと定着—」同志社大学大学院文学研究科紀要第15号pp25-61
- ・丸山敬介(2016)「『日本語教師は食べていけない』言説—『月刊日本語』の分析から—」同志社大学大学院文学研究科紀要第16号pp1-38
- ・高田誠(1992)「大学日本語教員養成課程から—卒業生に活躍の場を与えてほしい」『月刊日本語』1992年6月号アルク
- ・独立行政法人日本学生支援機構 平成27年度外国人留学生在籍状況調査  
[http://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl\\_student/data2015.html](http://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student/data2015.html)
- ・国際交流基金 2015年度海外日本語教育機関調査結果 <https://www.jpf.go.jp/j/about/press/2016/dl/2016-057-2.pdf>
- ・公益財団法人日本国際教育支援協会「日本語教育能力検定試験 全科目受験者 年代別比 推移」  
[http://www.jees.or.jp/jltct/pdf/graphs/2016\\_jltct\\_3\\_nendaibetsu.pdf](http://www.jees.or.jp/jltct/pdf/graphs/2016_jltct_3_nendaibetsu.pdf)
- ・志賀玲子(2016)「日本語教師養成講座の社会的意義についての考察—社会への再参加という視点から」2016年日本語教育国際研究大会予稿集電子版
- ・梶田孝道(1994)『外国人労働者と日本』NHK出版
- ・西日本新聞電子版「連載 新移民時代」2016年12月15日～2017年1月13日
- ・岩切朋彦(2015)「日本語学校におけるネパール人学生の様相とその諸問題 —福岡県A校に通うネパール人学生へのライフストーリーインタビューから—」『西南学院大学大学院国際文化研究論集』9号pp79-112
- ・有田佳代子(2016)『日本語教師の葛藤 構造的拘束性と主体的調整のありよう』ココ出版
- ・瀬瀬憲子(2016)「日本語とポップカルチャーコースをつなぐジョイントティーチングの試み」佐藤他編『未来を創ることばの教育をめざして』ココ出版pp247-278
- ・松岡弘(2002)「コメニウスと山口喜一郎、そして言語教育の普遍性について」『一橋論叢』129(3)pp175-193日本評論社
- ・中村重穂(2008)「日本語教育史研究方法論の再検討のために・その2—安田・松岡『論争』その他の問題によせて」『北海道大学留学生センター紀要』11、pp56-75